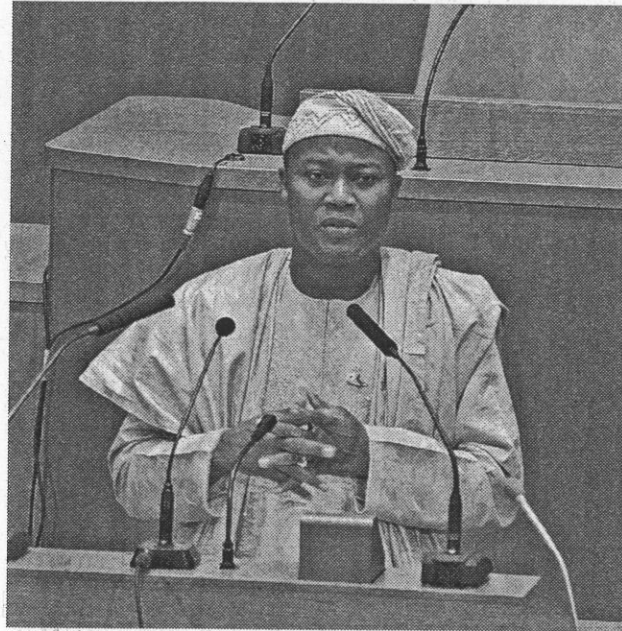


横浜市は「先見の明」会

ベナン共和国 ゾマホン大使が演説 市

第5回「アフリカ開発会議（TICAD）」の開幕が31日、横浜市会本会議場を前に、ベナン共和国のル



大使は「横浜がかつて西洋に門戸を開いたように、今度にはアフリカにも広く門戸を開放してほしい。そのために横浜の知恵と力を發揮してもらいたい」と呼び掛けた。

アフリカ開発会議に出席する同国のボニ・ヤイ大統領が演説する予定だったが、現地の悪天候で出発が遅れたため、同大使が大統領の代理で演説した。金色の民族衣装に身を包んだゾマホン大使は冒頭、東日本大震災の犠牲者に黙とうをささげたいと呼び掛け、林文子市長や市会全議員が1

横浜市会本会議場でボニ・ヤイ大統領のメッセージを代読したルフィン・ゾマホン駐日ベナン共和国特命全権大使

分間の黙とうを行った。

留学生として来日し、日本の大学で学んだことからしっかりとした日本語で演説を行ったゾマホン大使は、アフリカの都市が急速に成長している点に触れ、「アフリカに対する横浜市の積極的な取り組みは先見の明のある横浜だからこそ可能なのだと理解しています」と称え、市と市会の歓迎に感謝の念を表した。

本会議場での演説に先立ち、市長や正副議長、各会派の団長と懇談したゾマホン大使は「資源の少ない日本が先進国となったのは教育を大切にしてきたから。人材育成のため、ベナンからの留学生をぜひ横浜で多く受け入れてほしい」と話した。

(桐生 勇)